

街道を歩く



高札場跡

花の実家跡

ドイツ人ベルツ博士の妻花の実家(旅籠戸田屋)跡。花は東京神田で御油出身の荒井熊吉とそでとの間に生まれベルツ博士と結婚。明治8年任期を終えた博士とドイツに渡ったが博士が亡くなったので大正9年帰国。昭和12年74歳で亡くなる。熊吉の生家が戸田屋、菩提寺は西明寺、博士の供養塔がある。

高膳寺(曹洞宗)

境内、裏庭に“従是南相良領”の田沼領傍示石がある。相良藩主田沼意次は安永元年(1772)老中に昇格、当地(国府村)を拝領、村境に傍示石をたて通行する大名、旅人に誇示した。



高膳寺境内傍示石

国府観音

境内に“国府市開祖の碑”御油宿、赤坂宿の日常雑貨を扱う市があった赤坂の代官が貞享2年(1685)に認めたのが始まりという。また、芭蕉の句碑、紅梅塚がある
“紅梅や見ぬ恋作る玉すだれ”



力寿姫

三河国赤坂の宮路弥次郎長富の娘、力寿姫は美しく踊り上手であった。三河国司大江定基の愛妾となったが間もなく亡くなった。定基は7日7晩遺体に縋り悲しんだ。夢に文殊菩薩が現れ力寿姫の舌をきり、寺を立てよとのお告げがあり定基はお告げに従い陀羅尼山に登り舌を埋めそこに寺を建て文殊菩薩を安置し、力寿山舌根寺と名づけた。



大社神社の石垣堀

東海道：04 佐奈橋—御油西



御油宿 (赤坂宿へ16町)

江戸から35番目の宿場、吉田宿から2里22町
天保14年(1843)町並み9町13間、本陣3、脇本1。
旅籠62、赤坂と近いため御油は江戸方面、赤坂は京都方面専門の宿とわかれていた。赤坂と並んで遊興の宿であった。“御油に赤坂、吉田がなくば何のよしみで江戸通い”宿の東外れは姫街道との分岐点、追分。

[弥次・喜多]
御津町大雲寺近く、愛の名物あまざけ
“いや高き御寺のまえの名物は
これも仏になれしあまざけ”
宿に入り、ぬりたてたため女に
袖を引かれてうさければ
“その顔でとめだてなさば宿の名の
御油るされいと逃て行かばや”
弥次・喜多の狐騒動松並木よりは
はじまる。

東林寺 (浄土宗)

文享年間(1429-1441)龍月日藏和尚創建、洞元庵戸称す文正年間(1504-1521)梅空善友和尚堂宇創建、伽藍整備東林寺と改める。本尊阿弥陀如来(鎌倉時代初期と推定)、奥州へ下る牛若丸と契りを結んだ三河矢作の浄瑠璃姫の念持仏を当時の和尚が移し本尊にしたとか。境内には嘉永元年(1848)近くの大通寺の池に入水自殺をした飯盛女4人の墓がある。抱えていた大津屋弥助が哀み菩提を弔ったという。



東林寺

大津屋(今イチビキ)

飯盛女4人の入水自殺を機会に旅籠を止め味噌、溜まりの醸造はじめる。



本陣跡碑

大社神社 (祭神大国主命)

この石垣は田沼陣屋の石垣を寛政6年(1796)に移したもの。
毎年7月最後の土日に国府祭がある、歌舞伎行列が出る珍しいもの。



御油の町並み 広重の絵このあたりとか



東海道：三河・尾張9宿—④

平成14年04月20日

あきやま